

令和元年9月9日現在

機関番号：34310

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2018

課題番号：15K01898

研究課題名(和文) アメリカ研究におけるトランスナショナリズムと地域研究の未来

研究課題名(英文) Transnationalism in American Studies and Future of Area Studies

研究代表者

池田 啓子(Keiko Ikeda, Keiko)

同志社大学・グローバル・スタディーズ研究科・教授

研究者番号：10298705

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、グローバルな学問分野の再編成が進む中、地域研究はどのように生き延びるのかをいう問題を中心に据え、日米の研究者が協働し、複眼的、多文化的、学際的な視点から、トランスナショナルな地域研究のあり方を理論と実践の両側面から検証し、グローバル時代にふさわしい地域研究のあり方を探求した。具体的には、アメリカのアメリカ研究のトランスナショナリズムの動向、国際連携構築のための国際プログラムの量的、質的な把握と評価、そして高等教育機関におけるカリキュラムの変化とその評価、日米の地域研究再編成の動きの把握と内容分析、日米の地域研究者のアイデンティティやキャリア形成、などについて考察した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

多角的な角度から包括的にトランスナショナルな地域研についてメタ・ディシプリナリーな検証を行ったこの研究は、今まで日本とアメリカのアカデミックカルチャ、もしくは特定の地域研究学会の中で別々になされてきた議論をつなぎ、より新しい地域研究のあり方を考察することを可能とすると。また、国際化が急務とされている日本の研究や高等教育に置いて「独りよがり」ではない国際連携の方策を創出することに貢献するものである。

研究成果の概要(英文)：This study centered around the question of how the area studies can survive in the face of global disciplinary reorganization. Working together with American researchers, we examined the directions of transnational area studies from multi-cultural and interdisciplinary perspectives and searched for a new model of area studies in the age of globalization. More concretely, we examined 1) Discursive change in Transnational American Studies in the U.S., quantitative and qualitative change in international programs, curriculum change; 2) Restructuring of area studies program in Japan and U.S.; 3) the issues related to scholarly identity and career development.

研究分野：文化人類学

キーワード：地域研究 グローバル化 トランスナショナリズム アメリカ研究

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

第二次世界大戦終結後に誕生し、冷戦時代にアメリカの国家戦略の一部として発展した地域研究は、ある特定の地域を総合的に研究することを目的とする一つの学問分野として、日米の大学や研究会で独立した地位を保ってきた。しかしながらグローバル化が進む今日、学問の世界において、「グローバル」を上位に位置付ける学問分野の再編成が進んでおり、地域研究の存在意義が問われるようになってきた。このような趨勢の中で、地域研究の新しいあり方、パラダイムシフトの方向性を探ることが急務であると考えた。

2. 研究の目的

本研究は、日米のアメリカ研究者および他の地域研究者が、複眼的、多文化的、学際的な視点から、このような動向を把握、分析し、その問題点と課題を明らかにすることを通じて、グローバル時代にふさわしい地域研究のあり方を探求することを目的とした。

3. 研究の方法

- (1) 日米のアメリカ研究におけるトランスナショナルな研究の文献リスト作成
- (2) 日米の地域学会（アメリカ、アジア）における参与観察とディスコース分析
- (3) 国際連携の具体的なプログラムについての量的、質的調査
- (4) アメリカおよびそれ以外の地域研究学会や地域研究機関に属する研究者および地アドミニストレーターに対するインタビュー調査

4. 研究成果

(1) アメリカのアメリカ研究は、1980年代から「アメリカを総合的に研究する」という従来のアメリカ研究に対する内省的な批判と「アメリカ例外主義」を克服するために理論と実践の両側面において「トランスナショナルな方向転換 (transnational turn)」と呼ばれるパラダイムシフトを行った。このシフトは、アメリカ研究をトランスナショナルな視点から行うという研究内容のシフトとアメリカのアメリカ研究の国際化という二つの側面を含んでいる。前者には、アメリカをグローバルな視点から相対的に研究する研究、アメリカのヘゲモニーを批判的に検討する研究、アメリカを他の地域とのコンタクト・ゾーンで捉える研究、「アメリカ」という研究対象をアメリカという地理的・国家的領域内で捉えるのではなく、「アメリカ」をアメリカ以外のコンテキストで捉える研究などが含まれている。後者は、アメリカ研究がアメリカ人研究者による自己社会研究にとどまるのではなく、アメリカを「他者」として研究するアメリカ以外のアメリカ研究者の研究を重視し、学会における中心と周辺の間を再検討しようという試みがあり、その中には、「本当の意味での平等な国際的研究交流」を提唱するデズモンドとドミンガスが設立した IFUSS (International Forum of US Studies) や、IASA (International American Studies Association) が活発な活動を続けている。研究代表者は、異文化としてのアメリカ研究についてとりくんだプロジェクトにスウェーデン、イスラエル、カナダなどの学者とともに *America Observed: On International Anthropology of the U.S.* を出版した。(Dominguez and Habib eds., Berghahn Books, 2016)

(2) 超地域的な視点を持つ研究は、アメリカのアジア研究においても急増しており、ローカルな問題をグローバルな視野から検証することは一つのスタンダードになってきている。その一方アメリカの教育機関においてグローバル・スタディーズと言われるプログラムは、環境、医療、気候変動などのグローバル・イシューをそれぞれのテーマの専門家が理論的かつ包括的に扱い、地域研究とは切り離して組み立てられているものが多い。地域に対する深い知的コミットメントなしに進められているグローバル研究に対して、多くの地域研究者は、西洋優位主義の復活危惧し、ローカルを無視したグローバル研究が西洋的バイアスに基づく概念だけで空回りしていると批判している。グローバルイシューについての理論構築には、グローバルとローカルの関係を理解することが必須であり、そのためには、その両方に専門性の高い知識が求められるとし、地域研究の存在意義を強調する。

(3) またアメリカに本部を持つ国際的アジアは反対に、アジアの研究者にアジア研究（自己社会研究）とアジア以外の国の研究者のアジア研究（他者研究）の連携の重要性を確認し、北アメリカで開催される年次大会への参加が困難なアジアの研究者との交流を深めるために2014年よりアジアにおいて通常の年次大会とは別に AAS-in-Asia と名付けた学会を開催している。なお、2016年の学会は、研究代表者が統括し、研究分担者の協力のもと6月24日から27日に同志社大学で開催し、世界核国から1400名余の参加を得た。

(4) 研究会やセミナーでは、以下のようなテーマを議論した。地域研究が対象とする「地域」をどう定義するか、研究する側と研究される側の力関係、自社会研究と異文化研究の差異が地域研究に与える影響、地域研究における中心と周辺の関係性、グローバルとローカルを理論的にどうつなぐか、学問の世界におけるアメリカ中心主張からの脱却、超地域的な地域研究における専門性の確保、などである。これらの問題は、個々の研究者が学会発表や論文の形で扱っている。また、以下のセミナーを一般に公開して行った。

・ Carolyn Stevens (Monash University, Australia), "The Sonic Digital Repository: Interdisciplinary and Trans-area Studies," April 8, 2015

・ Gavin Campbell (Doshisha University), "Heaven Hell and 'Heathens' in the Age of

Empire,” June 18, 2015

・ Daniel McKay (Doshisha University), “The Hot Sun and the Mad Moon: Hiroshima in South African Literature,” December 6, 2017.

・ Carolyn Stevens (Monash University, Australia), “The Beetle in Japan: Exploring the Horizon of Trans-area Studies,” February, 19, 2018.

その他、意見交換のために研究会に参加した海外の研究者には、Laurel Kendell (2015 当時アジア学会会長)、William Kelly (Yale University), Carol Gluck (Columbia University), Chris Yano (University of Hawaii), Alex Zahlten (Harvard University), Theodore Bester (Director of Reischauer Institute of Japanese Studies, Harvard University), らがいる。

(5) この研究プロジェクトが提起したグローバル時代にふさわしい地域研究モデルの必要性は、日本だけではなくアメリカにおいても強調されていることがわかった。しかしながら、この問題は、個々の国のアカデミックカルチャの中で、またいろいろな研究学会で個別に議論されていることが多い。本研究は、地域研究が地域を越えるときに考えなければならない様々な問題を、一つの地域研究界の個別の問題として扱うのではなく、国や扱う地域が異なる研究者と対話することを通じて、超地域研究間の国際連携の可能性を考察した。また、実際に AAS-in-ASIA のような超地域的学会を開催することを通じて、国際連携の実践モデルを提示した。

5 . 主な発表論文等

[雑誌論文](計 13 件)

- Satoshi Mizutani, “Recovering the Subject in the Shadows of Empires: Colonial Violence and Resistance in Taiwan,” *Cross-Currents*, 7, pp.1-21, 2018. (査読あり)
- Satoshi Mizutani, “Semi-educated ‘Natives’ as a Source of Imperial Anxiety: The Politics of English Education and Bureaucratic Recruitment,” *Bangabidya: International Journal of Bengal Studies*, 10, pp. 536-557, 2018. (査読あり)
- Gavin Campbell, “To Make the World One in Christ Jesus’: Transpacific Protestantism in the Age of Empire,” *Pacific Historical Review*, 87, pp. 595-612, 2017. (査読あり)
- Gavin Campbell, “The Transnational Turn in American Studies, A View from the Water,” *Doshisha American Studies*, 53, pp. 85-97, 2017. (査読あり)
- Gregory Poole, “Administrative Practices as Institutional Identity: Bureaucratic Impediments to the ‘Internationalization’ Policy in Japan,” *Comparative Education*, 52, pp. 62-77, 2016. (査読あり)
- Satoshi Mizutani, “Anti-Colonialism and Contested Politics of Comparison,” *Journal of Colonialism and Colonial History*, 16(1), 2015 (Html 形式). (査読あり)
- Gavin Campbell, “An Unbroken Chain Between Us: Thoughts on Missionary Encounters,” *Doshisha American Studies*, 51, pp.1-20, 2015. (査読あり)

[学会発表](計 27 件)

- Satoshi Mizutani, “Taiwan as a Trans-imperial Space: W.M.H.Kirkwood and Japanese Colonialism, the 3rd Congress of Taiwan Studies (国際学会), 2018.
- Gavin Campbell, “Clothing the Body Politics: Menswear and Japanese Diplomacy, 1853-1871,” Anthropology of Japan in Japan Conference (国際学会), 2017.
- Gavin Campbell, “The United States, Japan and Transnational Politics of Menswear,” invited lecture at Department of History, University of Kentucky, 2017.
- Keiko Ikeda, “In Search for a New Paradigm of Area Studies,” Association for Asian Studies (国際学会), Seattle, WA.
- Satoshi Mizutani, “A Force of Civilization’ or a ‘Barbarous’ Despotism? Shifting British Attitudes towards Japanese Colonialism in Korea,” Among Empires: The British Empire in Global Context (国際学会), Lingnan University, Hong Kong, 2015.
- Satoshi Mizutani, “Remembering Trans-imperial Anti-Colonialism,” Colonial Memories, Comparative Perspective on German, Japanese, and Korea Cases (国際学会), University of Tübingen, Germany, 2015.

[図書](計 8 件)

- 水谷智 (共著、日本植民地研究会), 『日本植民地研究の論点』, 320 ページ, 岩波書店, 2018.
- Gregory Poole (共著 John Mock, Hiroaki Kawamura, et al), *The Impact of Internationalization on Japanese Higher Education*, 240 pages, Sense Publishers, 2016.
- Keiko Ikeda (共著 Virginia Dominguez, Jasmine Habib, Ulf Hannertz, et als.) *America Observed: On an International Anthropology of the U.S.*, 230 pages, Berghahn Books 2016.
- Gregory Poole (共著、John Mock, et als.), *Reframing Diversity in Anthropology of Japan*,

〔産業財産権〕
出願状況（計 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年：
国内外の別：

取得状況（計 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究分担者

研究分担者氏名：物部 ひろみ
ローマ字氏名：Monobe Hiromi
所属研究機関名：同志社大学
部局名：グローバル地域文化学部
職名：准教授
研究者番号（8桁）：10434680

(2) 研究分担者

研究分担者氏名：キャンベル ギャビン
ローマ字氏名：Campbell Gavin
所属研究機関名：同志社大学
部局名：グローバル・スタディーズ研究科
職名：教授
研究者番号（8桁）：40351283

(3) 研究分担者

研究分担者氏名：プール グレゴリー
ローマ字氏名：Poole, Gregory
所属研究機関名：同志社大学
部局名：国際教育インスティテュート
職名：教授
研究者番号（8桁）：60307147

(4) 研究分担者

研究分担者氏名：パヴラスカ スザンナ

ローマ字氏名 : Pavloska Susanna
所属研究機関名 : 同志社大学
部局名 : グローバル地域文化学部
職名 : 准教授
研究者番号 (8桁) : 6 0 2 5 4 3 7 2

(5) 研究分担者

研究分担者氏名 : 水谷 智
ローマ字氏名 : Mizutani Satoshi
所属研究機関名 : 同志社大学
部局名 : グローバル地域文化学部
職名 : 准教授
研究者番号 (8桁) : 9 0 4 1 1 0 7 4

(2) 研究協力者

研究協力者氏名 : テオドル ベスター教授 (ハーバード大学ライシャワー研究所所長)
ローマ字氏名 : Professor Theodore Bestor
研究協力者氏名 : ウィリアム ケリー教授 (イエール大学)
ローマ字氏名 : Professor William Kelly
研究協力者氏名 : クリス ヤノ教授 (ハワイ大学)
ローマ字氏名 : Professor Chris Yano
研究協力者氏名 : キャロリン ステーブンス教授 (モナッシュ大学)
ローマ字氏名 : Professor Carolyn Stevens
研究協力者氏名 : キャサリン ファイン教授 (フォートルイス大学)
ローマ字氏名 : Professor Kathleen Fine
研究協力者氏名 : メリー ホワイト教授 (ボストン大学)
ローマ字氏名 : Professor Merry White
研究協力者氏名 : ギャビン ホワイトロー (ハーバード大学ライシャワー研究所准所長)
ローマ字氏名 : Dr. Gavin Whitelaw
研究協力者氏名 : バージニア ドミンゲス教授 (IFUSS イリノイ大学)
ローマ字氏名 : Professor Virginia Dominguez
研究協力者氏名 : ジェーン デズモンド教授 (IFUSS イリノイ大学)
ローマ字氏名 : Professor Jane Desmond

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。